

急速に高齢化が進む上海

岡山県上海事務所 専任スタッフ 馬小琳

高齢化の現状

中国は約 14 億の人口を有しているが、2013 年には 60 歳以上の高齢者人口が 2 億人を突破し、現在中国は急速に高齢化が進展している。2040 年頃にはインドが中国を抜いて、世界で最も人口が多い国となるが、中国は今後も長期に渡り世界で最も高齢者の人口が多い国であり続ける見込みである。

特に、中国最大の国際都市である上海は、高齢化が深刻な社会問題となっている。上海の常住人口は、1982 年の 1186 万人から 2013 年の 2415 万人へと倍増し、特にこの十数年では 1000 万人近くが増え、2030 年になると 3000 万人に達するとの予測もある。上海の高齢化問題はますます深刻になり、2020 年に 60 歳以上の高齢者は 540 万人、2025 年には 600 万人を超え、さらに 2030 年になると、80 歳以上の高齢者が 110 万人に達すると見られている。現在上海市民の男性の平均寿命は 80.19 歳、女性の平均寿命は 84.79 歳であるが、2030 年になると平均寿命はさらに伸びて、男性が 85.39 歳、女性の平均寿命も 89.93 歳まで伸びると予想されている。こうした背景の下、高齢者をめぐる年金、医療保険、養老、老後の生活などの問題は無視できないものとなっている。

経済的な保障

現在、中国の男性の定年退職年齢は 60 歳、女性は 55 歳で、全国平均年金支給額は 1 カ月当たり 2600 元となっている。北京、上海など

一線都市の年金は他の都市より相対的に高く、2500 元～3000 元ぐらいである。しかも年金給付額は大体年間 5%程度上昇しているほか、以前勤めていた会社から別の手当てをもらっている人もいる。また、政府機関や事業単位（公的サービス組織）を定年退職した人の年金額は民間企業より高く、その中でも幹部等の年金額は一般職員より高くなっている。一部の幹部や公務員の中には 5000 元の年金をもらっている人もいる。

上海のほとんどの高齢者の医療費は医療保険でカバーされている。毎年口座に一定の金額が振り込まれ、日頃はこのお金を使って薬局で薬を購入したり、病院等での医療費に使用したりする。入院する場合は、大体 8 割程度の医療費が医療保険から戻ってくる。

また、上海では 70 歳以上の高齢者は地下鉄、バスの乗車料金が無料となるほか、公共施設の入場券も免除されるところが多い。

精神文化生活を豊かにするために

養老の面においては、伝統的な家庭養老（子供が親を扶養する）から、社会型養老（敬老院、老人ホーム、養老院など）に変化している。上海でも養老院を設立するところが増えているが、社会のニーズを満たすにはまだ至っていない。

高齢者はお金持ちが少なく、大抵の高齢者の収入は多くないため、日常生活以外で使えるお金はほとんど残らない。安定的な収入は高齢者の豊かな精神文化生活の前提であり、お金の余裕があれば、学習、娯楽、旅行などに費やすことができる。上海の高齢者の生活面においては

あまり金銭的な問題はないが、精神文化生活の面からは政府の対策はまだ不足している。例えば、毎日、公園や公共の場所の空地で、「広場ダンス」を踊っている高齢者の姿をよく見かけるが、音楽の騒音は周辺住民に非常に迷惑となっており、両者の間でトラブルになったという記事を新聞でよく見かける。高齢者のための専用の空地や広場などの社交場所が必要であろう。

今後、政府や民間事業者は、生活面の保障だけでなく、高齢者の精神文化生活を豊かにするための社会養老機構、老人大学、高齢者向けの運動施設などの場所を提供し、高齢者が精神的にも楽しい老後の生活を送ることができるような投資を行っていく必要がある。

(2014年6月)